

2015年15期事業報告書

2015年 1月 1日から 2015年 4月 30日まで

特定非営利活動法人

ケアリングフォーザフューチャーファンデーションジャパン

※ 事業年度の変更に伴い、2015年度は1月～4月までを15期、5月～翌4月までを16期として報告する。

1 事業の成果

① -a海外での開発教育等を活用した青年育成事業

2015年度15期は、従来のフィリピン・マレーシアにおけるワークキャンプ、スタディツアー、ハッピーキャンプに加え、ミャンマースタディキャンプを実施しました。合計8プログラムの実施でしたが、特に今期は感染症やテロ・紛争など国際情勢への不安からキャンセル者も多く、厳しい状況となりました。一方で、「このような時だからこそ、CFFのプログラムに参加してもらい、現地での活動を通して社会課題に向き合って考えてほしい」という青年たちが懸命に広報活動を行い、募集定員の約87%、のべ127名を現地に派遣することができました。地球規模の課題を「自分事」として捉え、自身が置かれている場所から一人ひとりができることを考え行動する。このような、団体が目指す「気づいて築く」青年が確かに育っていることを実感することのできるシーズンでもありました。

また、今期は、CFFフィリピン「子どもの家」事業地の村においてワークキャンプを実施しました。行政によるインフラ整備が行き届かないこのような農村地域において、青年たちが地域住民とともに地域のニーズに沿った道路造りを行うことで、特に現地の若手スタッフにとって、地域・青年・子どもとともに育つコミュニティベースの施設という意識の醸成に繋がりました。また、地域住民においても、そのような理解に繋がる第一歩となりました。

① -b 海外での開発教育等を活用した青年育成事業-教育機関との協働事業-

<順天高校との協働事業>

2月に順天高校校長がフィリピンを訪れ、協働事業のためのフィールド調査を実施しました。調査に伴い、CFFは現地コーディネーターや企画調整を担い、今後の協働事業の方向性を再度協議しました。今後は主に、地球規模の課題とフィリピンにおける課題との比較研究・課題研究を重点的に取り組むことになりました。フィールドワークを担当するCFFとして、順天高校の学生が行う比較研究・課題研究をどのように現場で活かしていけるのか、また、その研究とフィールドワーク実施の目的をいかに明確にしていくのか、そのためのサポートや具体的な協働方法を確立していくことが今後の課題となります。

<桜美林大学との合同プログラム>

2年目の実施ということで、事前に大学側とCFFで昨年度の危機管理体制の振り返り及び募集方法など、プログラム形態について協議した上で、今夏のプログラムの1つを桜美林大学マレーシア研修（合同プログラム）として実施することが決定しました。今後のプログラム展開に関しては、昨年度及び今期の実績と実施内容、団体ミッションに基づき、プログラム終了時点で再度検討していきます。

② 「子どもの家」支援等を通じた国際協力事業

<CFFインターナショナルコンベンションに向けて>

2015年6月に、CFFフィリピン・マレーシア・ジャパンの理事が一同に集い協議する「CFFインターナショナルコンベンション」が東京にて開催されます。チャイルドケアサポーターや大口寄付者、これまでの助成団体、関係機関を招き、「子どもの家」や事業報告を中心としたオープンフォーラムの実施

を予定しており、そのための準備を月2回の会議等を通じて進めてきました。各国理事にジャパンの青年活動の現場に触れてもらい、また、共通の課題を組織対組織として協議する中で、本来目指すべき現地法人との協働のあり方を築きます。

<「子どもの家」現地活動>

CFFフィリピン「子どもの家」では、年長者2名が退所、新規児童が3名入所しました。CFFマレーシア「子どもの家」のサステイナブルデザインの一環である養魚事業は、天候の影響で魚が大量死したことを受け、一時的に事業を縮小することになりました。一方で、昨年度から本格的に始めた施設内の天然素材を使用した手作りせっけんの安定的な生産が可能となったため、事業を拡大し、現地収入の向上に繋がりました。

③国内での国際協力・青年育成等の啓発・推進事業

2015年度15期では、前年度に引き続きワンワールドフェスティバル（大阪）・アースデイ東京に出展し、キャンプ・ツアーの説明会や、展示を通して現地の現状や団体の取り組みを紹介しました。

<2015年度の青年活動チーム（国内活動チーム）>

- ◎CFF運営委員会
- ◎キャンプ・スタディツアー実行委員会（春・夏期）
- ◎ハッピートレードチーム（フェアトレードチーム）
- ◎Anak Kanak（チャイルドケアサポーターチーム）
- ◎マレーチルドレンプロジェクト（マレーシア不法移民児童の支援活動）
- ◎マンゴー'S（野球チーム） ◎スポーツ支援チーム“ひまわり” ◎CFF FC(フットサルチーム)
- ◎東松島市復興支援活動チーム
- ◎地方チーム（関西、北海道、四国等） ◎大学チーム（東洋、成蹊等）

④その他：組織運営について（理事会・事務局など）

【理事会】

- 理事会実施回数：計2回
 - 第1回理事会 2月11日（CFF事務局）
 - 第2回理事会 4月29日（CFF事務局）
- ※第1回理事会と同日に総会を開催

【スタッフおよびインターン】

- ディレクター担当：安部 光彦、石井 丈士、高梨 恵子、田代 美智華
- 日本事務局スタッフ：石井 丈士、高梨 恵子、鈴木 沙彩、田代 美智華
- マレーシア駐在スタッフ：安部 光彦（日本事務局事務局長兼務）
- 海外事業地インターン：中村 公巳（マレーシア：～3月）、山田 晃平（フィリピン：2月～3月）

【加盟団体】

（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）

<インターン報告会の実施>

昨年度から重点的に取り組んでいたインターン制度確立の1つとして、インターン報告会を実施しました。これまでインターン生はインターン報告書及び担当理事との面談をもって終了していましたが、今後も継続・計画的にインターンを募集することを見越して、インターン説明会及び相談会も併せた形態で実施しました。インターン生にとっても、他者へ報告することを通して改めて自身の取り組みを振り返り、現場での経験をいかに自身の将来や社会に生かしていくかを考える機会となりました。当日は計28名が参加し、参加者の中から事務局インターンを希望する者が出たことも、本報告会の成果です。

2. 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施回数	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
①-a 海外での開発教育等を活用した青年育成事業	フィリピンワークキャンプ	2回	フィリピン	2名	日本人39名+現地人	12,632
	フィリピンハッピーキャンプ	1回	フィリピン	1名	日本人17名+現地人	
	フィリピンスタディツアー	1回	フィリピン	1名	日本人17名	
	マレーシアワークキャンプ	2回	マレーシア	2名	日本人38名+現地人	
	マレーシアスタディツアー	1回	マレーシア	2名	日本人13名	
	ミャンマースタディキャンプ	1回	ミャンマー	2名	日本人11名+現地人	
①-b 海外での開発教育等を活用した青年育成事業 -教育機関との協働事業-	順天高校協働事業	通年	フィリピン	2名	日本人30名	
②「子どもの家」支援等を通じた国際協力事業	フィリピン「子どもの家」支援	通年	フィリピン	2名	入所児童+周辺地域	751
	マレーシア「子どもの家」支援	通年	マレーシア	2名	入所児童+周辺地域	
③国内での国際協力・青年育成等の啓発・推進事業	イベントへの出展・活動紹介の支援	2回	都内周辺および関西	のべ約20名	不特定多数 一般	11
	フェアトレード商品等の販売の支援 よりみち大学	2回	都内周辺	のべ5名	会員および一般約20名	

(2) その他の事業：特になし